

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-032883

(43)Date of publication of application : 02.02.2000

(51)Int.Cl.

A01K 87/06  
A01K 87/08

(21)Application number : 10-203937

(71)Applicant : RYOBI LTD

(22)Date of filing : 17.07.1998

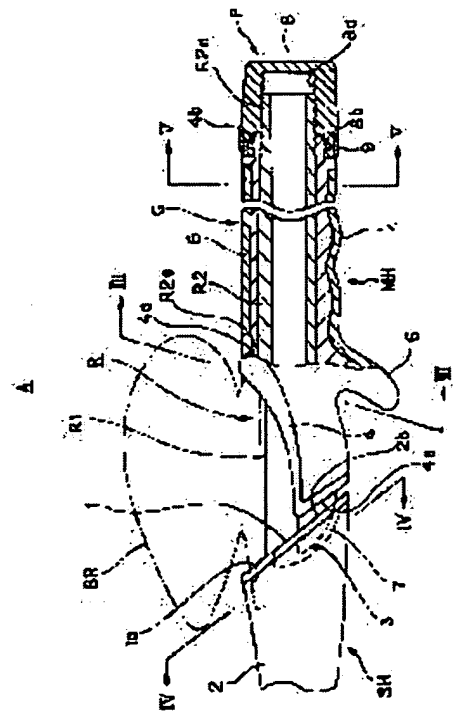
(72)Inventor : SHIGEFUJI HIDETOSHI

## (54) REEL SEAT OF FISHING ROD

### (57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a compact reel seat, capable of surely suppressing a shake in a diameter direction of a transferrable hood not giving a disordered feeling to hand and excellent in durability.

SOLUTION: This seat has a fixed hood SH fixed at a rod tube R, and a transferrable hood MH capable of transferring relative to the rod tube R in its axis direction. On at least one of the fixed hood SH and the transferrable hood MH, a recessed part 3 as a part being fitted with is installed, and a tongue like piece 7 as a fitting part for fitting to the recessed part 3 on at least other one of the fixed hood SH and the transferrable hood MH.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

THIS PAGE BLANK (USP 10)

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-32883

(P2000-32883A)

(43)公開日 平成12年2月2日(2000.2.2)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F.I

テーマコート\* (参考)

A 0 1 K 87/06

A 0 1 K 87/06

B 2 B 0 1 9

87/00

6 2 0 E

87/08

630 E

審査請求 未請求 請求項の数5 OL (全 8 頁)

(21)出願番号

特願平10-203937

(22) 出願日

平成10年7月17日(1998.7.17)

(71)出願人 000006943

リョービ株式会社

広島県府中市目崎町762番地

(72)発明者 重藤 秀俊

広島県府中市目崎町762番地 リョービ株式  
会社内

(74)代理人 100083839

弁理士 石川 泰男

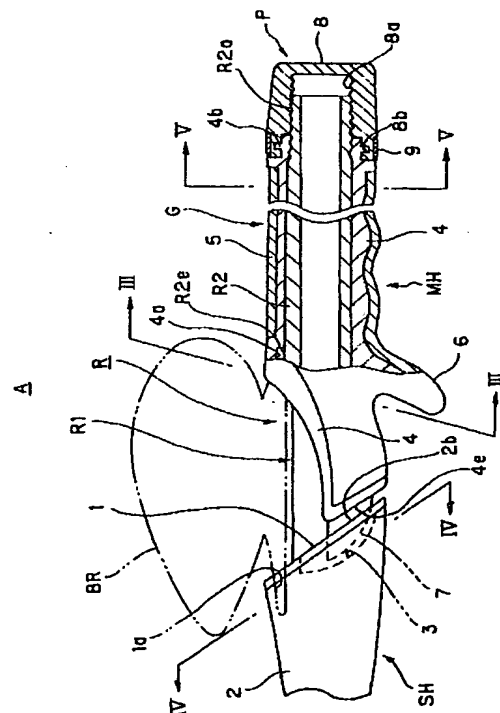
Fターム(参考) 2B019 AA14 AB51 CB10

(54)【発明の名称】 釣り竿のリールシート

(57) 【要約】

【課題】 移動フードの径方向におけるガタツキを確実に抑制し、手に違和感を与えることなく、耐久性に優れ且つコンパクトな釣り竿のリールシートを提供する。

【解決手段】 リールシートは、竿管Rに固定された固定フールドSHと、竿管Rに対してその軸方向に移動可能な移動フールドMHとを有する。固定フールドSH及び移動フールドMHの少なくとも一方に被嵌合部としての凹部3を設け、固定フールドSH及び移動フールドMHの少なくとも他方に、凹部3に嵌合する嵌合部としての舌片7を設ける。



1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 竿管に固定された固定フードと、竿管に対して竿管の軸方向に移動可能な移動フードとを有する釣り竿のリールシートにおいて、固定フード及び移動フードの少なくとも一方に被嵌合部を設け、固定フード及び移動フードの少なくとも他方に、該被嵌合部に嵌合する嵌合部を設けたことを特徴とする釣り竿のリールシート。

【請求項 2】 嵌合部及び被嵌合部は両フードの外面よりも径方向に突出しないことを特徴とする請求項 1 に記載の釣り竿のリールシート。

【請求項 3】 両フードのうち、竿管軸方向後方に位置するフードはその前端面がリール取付け面側からその反対側に向けて前方へ傾斜していることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の釣り竿のリールシート。

【請求項 4】 嵌合部と被嵌合部との嵌合面の少なくとも一方に傾斜面を形成したことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 の何れかに記載の釣り竿のリールシート。

【請求項 5】 嵌合部の上面がリールシートに取り付けられたリールの下面に当接し得るように形成されたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 の何れかに記載の釣り竿のリールシート。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は釣り竿のリールシートに関する。

【0002】

【従来の技術】 釣り竿用リールシートは、リールを釣り竿に着脱可能に取付けるために使用される。

【0003】 この種の釣り竿用リールシートに関して、実用新案登録第 2 5 1 4 3 2 6 号公報には、移動フード側に向かって延びる握り部を固定フードに一体成形し、リールシートへのリール脚取付け時に、上記握り部と竿管との間の空隙に移動フードの一部を挿入することにより、握り部が移動フードの一部を覆うように構成されたリールシートが開示されている（以下、「先行技術」という）。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、先行技術においては、固定フードと一体に張り出した握り部によって移動フードの一部を覆うように構成されているため、リールシートが釣り竿の径方向に大きくなる傾向がある。また、先行技術の上述した構造においては、固定フードの握り部と移動フードとの重ね合わせ部分において、段差が必然的に生じ、握り難いという問題がある。更に、固定フードの握り部は、移動フードの一部を覆うことができるのみで、これ等は相互に係合されておらず、従って、これ等両者間にガタツキが発生して、リールを安定して保持できないという問題がある。しかも、

釣り竿の曲がりやよじれによって、握り部が移動フードから浮き上がって、リールと共にリールシートを把持する手に違和感を与えるのみならず、この浮き上がりは、握り部の損壊の原因となり、耐久性において問題がある。

【0005】 本発明の目的は、移動フードの径方向におけるガタツキを確実に抑制し、手に違和感を与えることなく、耐久性に優れ且つコンパクトな釣り竿のリールシートを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するため、請求項 1 の発明は、竿管（R）に固定された固定フード（SH）と、竿管（R）に対して竿管（R）の軸方向に移動可能な移動フード（MH）とを有する釣り竿のリールシートにおいて、固定フード（SH）及び移動フード（MH）の少なくとも一方に被嵌合部（3）を設け、固定フード（SH）及び移動フード（MH）の少なくとも他方に、該被嵌合部（3）に嵌合する嵌合部（7）を設けたことを特徴とする。

【0007】 請求項 2 の発明は、請求項 1 のリールシートにおいて、嵌合部（7）及び被嵌合部（3）は両フード（SH、MH）の外面よりも径方向に突出しないことを特徴とする。

【0008】 請求項 3 の発明は、請求項 1 又は請求項 2 のリールシートにおいて、両フード（SH、MH）のうち、竿管軸方向後方に位置するフードはその前端面がリール取付け面側からその反対側に向けて前方へ傾斜していることを特徴とする。

【0009】 請求項 4 の発明は、請求項 1 乃至請求項 3 の何れかのリールシートにおいて、嵌合部（7）と被嵌合部（3）との嵌合面の少なくとも一方に傾斜面（3a、3b、4d、7a、7b、7c）を形成したことを特徴とする。

【0010】 請求項 5 の発明は、請求項 1 乃至請求項 4 の何れかのリールシートにおいて、嵌合部（7）の上面がリールシートに取り付けられたリールの下面に当接し得るように形成されたことを特徴とする。

【0011】

【発明の実施の形態】 以下、図 1 乃至図 5 を参照して本発明の第 1 実施形態による釣り竿のリールシート A を詳述する。リールシート A は、ベイトリール用に設計されたもので、釣り竿 R のリール取付位置に設けられており、固定フード SH と、移動フード MH と、尻栓 P とから構成されている。

【0012】 固定フード SH は、後端から先端に向けて漸次直径が小さくなるように、先細に成形されたもので、釣り竿 R のリール取付位置、即ち、小径部 R1 に固着された硬質部としての固定フード本体 1 と、固定フード本体 1 の後端における縁部を除くその表面を覆う軟質部 2 とから構成されている。

【0013】固定フード本体1は、上部にリール脚の先端を受け入れるためのリール脚挿入穴1aを有しており、又、後端部に、その後方に向かって上方から下方に傾斜した面2bを有している。更に、固定フード本体1の後部には、後方に向けて開口された被嵌合部としての略U字状の凹部3が形成されている（図1及び図4参照）。固定フード本体1は、例えば、ガラス繊維を含むABS（アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン）樹脂等の射出成形によって得られる。

【0014】軟質部2は、ポリエーテル系、ポリウレタン系、ポリエステル系、ポリアミド系等の熱可塑性エラストマーを使用して、二重成型またはインサート成型によって得られる。これにより、キャストイングの際、手触りが良く、滑り止め効果が発揮される。勿論、上述した熱可塑性エラストマー製の軟質部2の代わりに、コルク製の軟質シートを移動フード本体3の外周面に接着してもよい。

【0015】図4から明らかなように、固定フードSHの縦断面における外周は、略U字状の軟質部2と、その軟質部2の両端間に配置された固定フード本体1とによって特定されているが、この軟質部2の両端と固定フード本体1との間には、溝1bがそれぞれ形成されている。この溝1bは、固定フードSHを把持する際の滑り止め作用を有すると共に、軟質部2の両端部における大きな変形を許容し、もって、グリップ感を向上する。

【0016】リールシートAにおいては、移動フードMHを釣り竿Rに装着するために、釣り竿Rの小径部R1よりも後方部分に補強巻きを施して、大径部R2を形成している。この大径部R2の後端にはネジ部R2aが、先端上面にはリール脚載置部R2eが、長さ方向両側部には平坦なガイド面R2b、R2b（図5参照）がそれぞれ形成されている。このガイド面R2b、R2bは、大径部R2の両側に切削加工を施すことによって形成される。この大径部R2においては、上方部分、即ち、リール脚載置部R2e側の部分が下方部分よりも厚くなるように、円形状の内孔の中心は、略円形状の外周面の中心よりも僅かに下方に偏倚している。

【0017】上述した大径部R2を、図7に示すように、短尺部分R2c、R2dに分割してもよい。この場合、大径部は、上方にリール脚載置部10を、両側部に平坦なガイド面11をそれぞれ有する前方側短尺補強体R2cと、後端にネジ部12を、両側部に平坦なガイド面13をそれぞれ有する後方側短尺補強体R2dとから構成される。このように構成すれば、釣り竿R全体の重量を軽くすることができ、しかも、釣り竿Rの調子への影響を著しく抑制することができる。

【0018】勿論、釣り竿Rに管状の別部品を嵌合・固定して、上述した大径部R2、又は、R2c及びR2dを形成してもよい。

【0019】移動フードMHは、上述した大径部R2の

外側に回転不能且つ軸方向に摺動可能に配置される。移動フードMHは、硬質部としての移動フード本体4と、その外周面における所要部分を覆う軟質部5とから構成されている。

【0020】移動フード本体4は、前方の上部に、リール脚の後端を受け入れるためのリール脚挿入穴4aを有しており、前方の下部に、その後方に向かって上方から下方に傾斜した、上記固定フードSHの傾斜面2bと合致する面4eを有しており、更に、後部に、後述する尻栓Pとの連結のための外向きの係合突起4bを有している。また、図5に示すように、移動フード本体4は釣り竿Rの大径部R2のガイド面R2b、R2bに合致する平坦なガイド面4e、4eをそれぞれ有している。これにより、移動フード本体4は、上記大径部R2に対して回転不能且つ軸方向に摺動可能に取り付けられる。更に、移動フード本体4の前部には、嵌合部としての略U字状の舌片7が前方に向けて突出するように一体成形されている。この舌片7は、固定フードSHの被嵌合部としての凹部3内に密着状態で嵌合可能である。

【0021】移動フード本体4は、例えば、ガラス繊維を含むABS（アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン）樹脂等の射出成形によって得られ、一方、軟質部5は、ポリエーテル系、ポリウレタン系、ポリエステル系、ポリアミド系等の熱可塑性エラストマーを使用して、二重成型またはインサート成型によって得られる。これにより、キャストイングの際、手触りが良く、滑り止め効果が発揮される。尚、移動フード本体4の外側に軟質部5を形成する場合において、先に成形された移動フード本体4は、軟質部5の基本形状を決定する外径を有している。従って、この移動フード本体4を金型内に挿入した状態で、インサート成型を施すと、移動フード本体4の外表面と金型の内表面との間に樹脂が流れ込み、その結果、二重構造の樹脂成形体を得られる。

【0022】図3から明らかなように、移動フードMHの縦断面における外周は、略U字状の軟質部5と、その軟質部5の両端間に配置された移動フード本体4とによって特定されているが、この軟質部5の両端と移動フード本体4との間には、溝4cがそれぞれ形成されている（図6参照）。この溝4cは、移動フードMHを把持する際の滑り止め作用を有すると共に、軟質部5の両端部における大きな変形を許容し、もって、グリップ感を向上する。

【0023】勿論、上述した熱可塑性エラストマー製の軟質部5の代わりに、コルク製の軟質シートを移動フード本体4の外周面に接着してもよい。上述から明らかなように、移動フードMHの後部は把持可能な長さを有しており、換言すれば、移動フードMHの後部には、グリップ部Gが設けられている。

【0024】上述したように、リールシートAはベイトリール用に設計されているため、移動フードMHの先端

下方にトリガー 6 が設けられている。しかしながら、リールシート A をスピニングリール用に設計する場合には、このトリガー 6 は不要である。

【0025】また、上述した釣り竿 R の大径部 R 2 はリール脚載置部 R 2 e を有するものとして説明したが、移動フード本体 4 の前方に、リール脚載置部を有するリール脚挿入穴を形成してもよい。このように構成すれば、リール脚の後部を硬質樹脂によって保持することができ、強度を向上させることができる。

【0026】尻栓 P は、釣り竿 R の大径部 R 2 の後端と移動フード MH との相対距離を変化させるように、大径部 R 2 のネジ部 R 2 a に螺合されている。即ち、尻栓 P は合成樹脂からキャップ状に成形された尻線本体 8 となり、内周面にネジ部 8 a が形成されている。この尻栓 P の先端側内周面には、環状溝 8 b が形成されており、その中に、移動フード本体 4 の係合突起 4 b を周方向に回転可能に受け入れている。尻栓 P の環状溝 8 b の外側には、金属製リング 9 が取り付けられ、その部分を補強している。また、尻栓 P は外周に滑り止めのための複数個の溝（図示せず）を有していることが望ましい。

【0027】次に、上述したリールシート A の使用方法を以下に説明する。

【0028】釣り竿 R のリールシート A にリール BR を取り付ける場合には、まず、尻栓 P を、反時計方向に回転させる。このような尻栓 P の回転に伴って、移動フード MH は釣り竿 R の後端側に摺動し、固定フード SH と移動フード MH との間に、リール脚を挿入するのに十分なスペースが確保される。

【0029】次いで、リール脚を上記スペース間に配置し、リール脚の先端を固定フード SH のリール脚挿入穴 1 a 内に挿入する。次いで、尻栓 P を時計方向に回転させて、移動フード MH を固定フード SH 側に摺動させ、もって、移動フード MH のリール脚挿入穴 4 a 内でリール脚の後端を支持する。

【0030】このようなリールの取付け状態において、移動フード MH の嵌合部としての舌片 7 は、固定フード SH の被嵌合部としての凹部 3 内に密着状態で嵌合する。これにより、移動フード MH の径方向におけるガタツキが抑制される。更に、舌片 7 は、固定フード SH 及び移動フード MH から径方向に露出することなく、両フード SH、MH は面一となる。従って、見栄えが良く、手触りも改善される。尚、このような取付け状態において、移動フード MH の前方に軸方向に長く延びる舌片 7 を、固定フード SH と釣り竿 R との間の凹部 3 内に嵌合させているので、より安定した状態で、リール BR の取付けが行える。

【0031】上述した第 1 実施形態によるリールシート A において、移動フード MH の後部には、グリップ部 G が設けられている。特に、このグリップ部 G がダブルハンドル型のように比較的長い長さを有する場合には、移

動フード MH をその長さ方向において前後に 2 分割してもよい。このようにすれば、移動フード本体 4 の長さを短くして、その射出成形を容易にすることができる。

【0032】次に、図 8 を参照して本発明の第 2 実施形態による釣り竿のリールシート B を詳述する。このリールシート B は、下記の点を除き、上述した第 1 実施形態によるリールシート A と同一である：

【0033】① 固定フード SH が嵌合部としての舌片 7 を有している。

② 移動フード MH が上記舌片 7 を受け入れる被嵌合部としての凹部 3 を有している。

【0034】従って、リールシート B のリールシート A と同一の構成要素に同一の符号を付して、その説明を省略する。

【0035】固定フード SH の後部には、嵌合部としての略 U 字状の舌片 7 が前方に向けて突出するように一体成形されている。一方、移動フード MH の前部には、前方に向けて開口された被嵌合部としての略 U 字状の凹部 3 が形成されている。固定フード SH の舌片 7 は、移動フード MH の凹部 3 内に密着状態で嵌合可能である。

【0036】リールシート B の使用法は、上述したリールシート A の使用法と同一であるため、その説明を省略する。このリールシート B によれば、リールシート A と同一の効果がもたらされる。

【0037】次に、図 9 を参照して本発明の第 3 実施形態による釣り竿のリールシート C を詳述する。このリールシート C は、図 8 に示した第 2 実施形態によるリールシート B を変形させたもので、図 9 は、下方から見たリールシート C の要部を示している。このリールシート C は、下記の点を除き、上述した第 2 実施形態によるリールシート B と同一である：

【0038】① 固定フード SH の舌片 7 が先細に成形されており、両側にテーパ面 7 a、7 a をそれぞれ有している。

② 移動フード MH の凹部 3 が前方に向かって漸次広がり、左右にテーパ面 4 d、4 d をそれぞれ有している。

【0039】従って、リールシート C のリールシート B と同一の構成要素に同一の符号を付して、その説明を省略する。

【0040】図 9 には、舌片 7 及び移動フード MH の一部のみが示されており、固定フード SH そのものは図示されていないが、この固定フード SH の舌片 7 は、図 9 に示すように先細に成形されており、両側にテーパ面 7 a、7 a をそれぞれ有している。

【0041】一方、図 9 に示すように、移動フード MH の凹部 3 は前方に向かって漸次広がり、左右にテーパ面 4 d、4 d をそれぞれ有している。このテーパ面 4 d、4 d は、舌片 7 のテーパ面 7 a、7 a に合致するように構成されている。



【0042】リールシートCの使用法は、上述したリールシートAの使用法と同一であるため、その説明を省略する。このリールシートCによれば、リールシートBと同一の効果に加えて、移動フールドMHの、竿管Rの軸方向に対する左右方向のガタツキが確実に抑制される。即ち、リール取付け操作において、移動フールドMHを図9において左側に移動させて、舌片7が凹部3に入ると、移動フールドMHのテーパ面4d、4dが舌片7のテーパ面7a、7aに接触しながら、移動フールドMHが案内され、前者のテーパ面4d、4dが後者のテーパ面7a、7aとそれぞれ密着した状態で嵌合される。これにより、移動フールドMHの左右方向のガタツキが確実に抑制され、移動フールドMHをより強固に固定することができる。

【0043】尚、上述したリールシートCにおいては、テーパ面4d、4d及びテーパ面7a、7aを移動フールドMH及び舌片7の幅方向にそれぞれ形成しているが、図10に示すように、移動フールドMH及び舌片7の上下方向にそれぞれ形成してもよい。これにより、移動フールドMHの、竿管Rの軸方向に対する上下方向のガタツキも確実に抑制される。

【0044】次に、図11を参照して本発明の第4実施形態による釣り竿のリールシートDを詳述する。このリールシートDは、下記の点を除き、上述した第1実施形態によるリールシートAと同一である：

【0045】① 移動フールド本体4の前端面がリール取付け面側からその反対側に向けて前方へ傾斜している。

【0046】従って、リールシートHのリールシートAと同一の構成要素に同一の符号を付して、その説明を省略する。

【0047】即ち、移動フールド本体4は、後端部に、その前方に向かって上方から下方に傾斜した面4dを有している。これに伴って、固定フールドSHは、後端部に、その前方に向かって上方から下方に傾斜した面2bを有している。移動フールド本体4の傾斜面4dは固定フールドSHの傾斜面2bと合致する。

【0048】リールシートDの使用法は、上述したリールシートAの使用法と同一であるため、その説明を省略する。このリールシートDによれば、リールシートAと同一の効果に加えて、握り易さが改善される。

【0049】即ち、固定フールドSH及び移動フールドMHにおいては、各々の側面における突き合わせ面が傾斜している。移動フールドMHは、下部に向けて前方に傾斜しており、下側に向かうほど前方へ突出しているため、リールをパーミングしたときに、移動フールドMHの下面側に位置する人差し指、中指、薬指及び小指が固定フールドSHとの段差部分に接触することがなく、グリップ感が改善される。しかも、リールの取付け状態において、移動フールドMHの前方に軸方向に長く延びる舌片7を、固定フールドSHと釣り竿Rとの間の凹部3内に嵌合させて

いるので、より安定した状態で、リールの取付けが行える。

【0050】上述した第1乃至第4実施形態のリールシートA乃至Dにおいては、固定フールドSH及び移動フールドMHの何れか一方に被嵌合部としての凹部3が設けられ、その何れか他方に嵌合部としての舌片7が設けられたものとして説明したが、固定フールド及び移動フールドMHの双方に、凹部3及び舌片7をそれぞれ設け、これ等フールドのそれぞれの凹部及び舌片7を相互に嵌合するように構成してもよい。

【0051】上述したリールシートA乃至Dにおいて、釣り竿Rの大径部R2の内周面に雌ネジ部を形成し、この雌ネジ部に尻栓Pを螺合してもよい。この場合には、尻栓Pの内側に、外周面に雄ネジ部が形成された筒状の挿入部を同軸に一体成形し、この挿入部を釣り竿Rの大径部R2の雄ネジ部に螺合する。

【0052】また、上述したリールシートA乃至Dにおいては、移動フールド本体4の後端部外周面に外向きの係合突起4bを形成し、一方、尻栓Pの先端側内周面に、上記係合突起4bを回転可能に受け入れる環状溝8bを形成したものと説明したが、尻栓Pの先端側内周面に内向きの係合突起を形成し、一方、移動フールド本体4の後端部外周面に、上記係合突起を回転可能に受け入れる環状溝を形成してもよい。

【0053】上述したリールシートA乃至Dにおいて、嵌合部としての舌片のリール側部分を部分的に、または、長さ方向に亘って全体的にリール脚側に突出させ、その突出部の先端をリール脚に当接させることも可能である。これにより、リールを更に安定した状態でリールシートに取り付けることができる。

【0054】更に、本発明のリールシートA乃至Dは、ベイトリール用に設計されたものとして説明したが、本発明はスピニングリール用リールシートに適用することも可能である。

【0055】

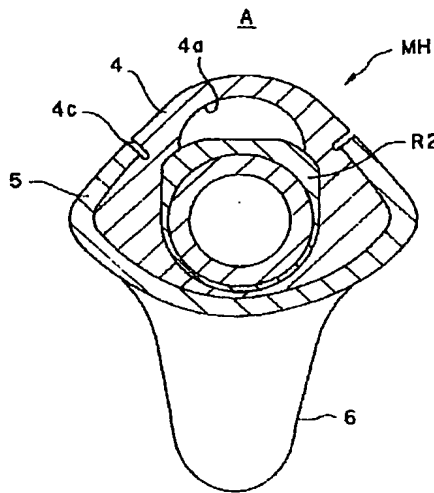
【発明の効果】請求項1に記載した本発明によれば、竿管に固定された固定フールドと、竿管に対して竿管の軸方向に移動可能な移動フールドとを有する釣り竿のリールシートにおいて、固定フールド及び移動フールドの少なくとも一方に被嵌合部を設け、固定フールド及び移動フールドの少なくとも他方に、該被嵌合部に嵌合する嵌合部を設けているので、嵌合部と被嵌合部とによって、両フールドの径方向のガタツキを確実に抑制することができ、耐久性が良く、手に違和感を与えることがない。

【0056】請求項2に記載したように、請求項1のリールシートにおいて、嵌合部及び被嵌合部は両フールドの外周面よりも径方向に突出しないように構成すれば、両フールドを面一に配置することができ、見栄えが良く、手触りも改善される。

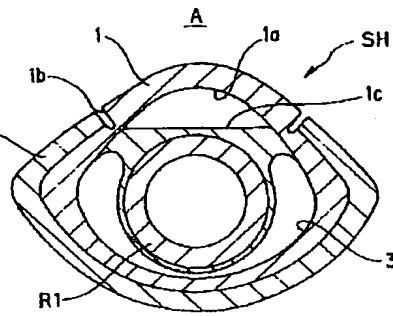
【0057】請求項3に記載したように、請求項1又は



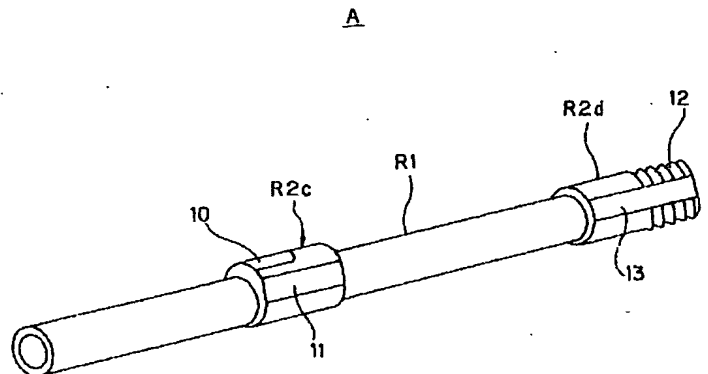
【図 3】



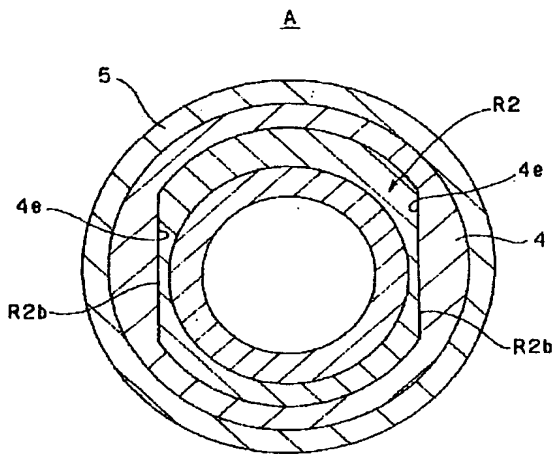
【図 4】



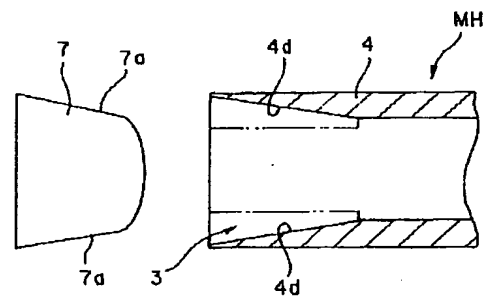
【図 7】



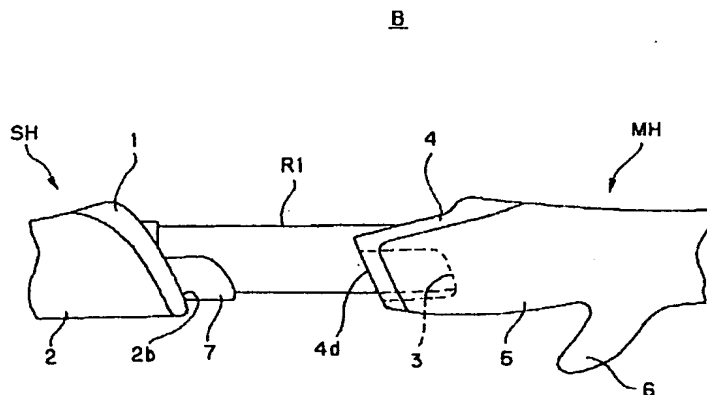
【図 5】



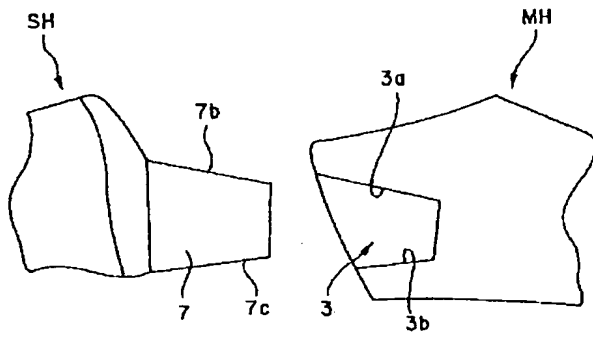
【図 9】



【図 8】



【図 1 0】



【図 1 1】

D